

研究テーマ

進んで運動に親しむ子供の育成

薩摩川内市立八幡小学校

〒895-0071

薩摩川内市田海町3683-1

TEL 0996-30-2132

FAX 0996-30-2725

1 実施内容（計画、活動、対象、主な内容等）

- (1) 平成26年度（1年次）の実施計画
 - ア 研究テーマの理論的な内容の研究
 - (ア) 主題・研究内容等の決定及び年間指導計画・評価規準の作成
 - (イ) 児童の実態調査及び研究の構想・視点の設定
 - イ 授業を通じた実践研究
 - (ア) 教科体育・教科外体育・学校行事・一家庭一運動等での取組
 - (イ) 地域人材の効果的な活用や地域行事への積極的な参加
- (2) 具体的な活動内容
 - ア 本校のこれまでの取組及び体力・運動能力調査等から実態の分析
 - (ア) 本校の児童は、比較的運動能力は高いと分析できた。そこで、特に落ち込みのある項目の強化を優先に「進んで運動に親しむ子どもの育成」を図った。
 - イ 教科体育・教科外体育・学校行事・一家庭一運動等での取組
 - (ア) 教科体育での取組
 - 評価規準をもとに各領域における補助運動を設定する。
 - ・ 体力向上プログラムの主運動につながるプログラムを設置し、授業で活用した。
 - (イ) 教科外体育での取組
 - 「朝の体力づくり」【8:00～8:10(児童の委員会主催)】でランニングとサーキットトレーニングを縦割り班で取り組むことで持久力の向上を図った。
 - 仲よし体育(業間)で「チャレンジかごしま」の実践時間に設定し、「レッツ短縄跳び」を行った。
 - 体力・運動能力調査により落ち込んでいる領域の追跡調査（5月・1月）を行い、比較し、分析を行った。
 - (ウ) 学校行事等での取組
 - 「薩摩川内元気塾」による取組を体力向上の分野に特化させ、意図的に取り組むことができた。専門的な講師による指導のもと、段階的な指導を受けることで効果的に体力向上を図った。
 - (エ) 一家庭一運動の実践
 - 運動量の不足(二極化)や家庭状況による課題から運動の日常化を図るために家庭教育学級や薩摩川内元気塾等の機会を活用し、家族でできる運動の紹介を実践を交えながら取り組んだ。
 - ウ 地域との連携
 - (ア) 地域人材の計画的な活用を行った。(表現・綱引き・陸上)
 - (イ) 地域の体育的行事への参加を勧めた。(完走歩大会・グラウンドゴルフ大会等)

2 実施上で工夫したこと

- (1) 体力・運動能力調査等の実態から体力向上に向けての課題を明確にし、種目別や領域別に専門的な外部講師を招聘して効果的な実践を行うようにした。
- (2) 運動の日常化を図り、積極的に運動に親しむという視点から「朝の体力づくり」や「サーキットコース」の設定を行ったり、家庭への意識調査を行ったりして全校で運動に親しむ意識の高揚を図るようにした。

3 主な成果

- (1) 全学年において、体力・運動能力調査で総合的に平均値を下回っていた「握力」「シャトルラン」「ソフトボール投げ」の3種目の追跡調査（5月・1月）を実施した。落ち込んでいる種目もあるが全体的な記録は大幅な伸びが見られた。【資料1参照】
- (2) 児童会が主体となって行っている「朝の体力づくり」でのランニングやサーキットコースでのトレーニングに毎日取り組むことで、運動の日常化が図られ、運動量も増えてきた。また、家庭での運動についても少しずつ関心が高まり、運動時間も増えてきた。【資料2・3参照】

4 実践の様子（写真，絵図，グラフ等）

【体力・運動能力調査結果の推移：資料1】 ※網掛け部分は前回の数値を上回った児童

		握力		20m シャトルラン		ソフトボール投げ	
		5月	1月	5月	1月	5月	1月
1年	男	9.45	7.36	13.40	↑ 19.66	9.16	↑ 13.30
	女	10.62	10.02	9.50	↑ 19.66	7.25	↑ 9.00
2年	男	11.00	↑ 12.14	27.20	↑ 42.75	14.60	↑ 19.50
	女	11.00	↑ 11.38	22.00	↑ 24.25	8.75	↑ 9.50
3年	男	11.00	↑ 11.50	18.66	↑ 31.67	14.00	12.33
	女	14.00	13.30	39.50	↑ 44.00	11.00	↑ 13.00
4年	男	11.00	↑ 17.05	41.11	↑ 52.57	19.11	↑ 23.42
	女	15.00	↑ 15.00	39.00	34.50	18.50	↑ 24.00
5年	男	14.00	↑ 14.55	50.00	48.25	20.33	↑ 28.00
	女	16.03	↑ 20.03	51.33	↑ 53.60	13.16	↑ 18.00
6年	男	17.00	↑ 18.91	68.00	↑ 89.00	28.00	↑ 32.66
	女	19.00	↑ 21.80	45.00	44.00	15.00	↑ 26.80

【考察】

それぞれの種目において前回数値を下回っている学年があるが、ほとんどの学年が大幅に記録が向上している。

このことは、これまでの取組の成果であるとともに、児童の意欲の向上が大きな要因であると考えられる。

これらの結果を児童に示し、さらに運動への意欲を高めるために、計画的に取組を推進していく。

【体力向上プログラム実践例の活用】



体力向上プログラム実践例を工夫し、教科体育に限らず、業間体育等に取り入れることで運動の特性をより確実に把握することができた。

【朝の体力づくり：資料2】



毎朝8:00～8:10の10分間で、児童の委員会が中心となって進める活動である。主体的に目標を持ちながら取り組むことができた。今後更に運動に親しむ環境を整備する必要がある。

【家庭での運動時間の推移：資料3】

＜1日の運動時間(分)＞

10月	1月
11.3	30.0

←家庭(親子)でできる運動教室



【チャレンジかごしまの取組】



記録は常時児童に知らせ、意欲の持続化を図った。

【地域との連携】



地域ぐるみの体力づくりの一環として積極的に取り組んだ。

←校区完走歩・ウォーキング大会の様子

【地域スポーツ人材の活用(薩摩川内元気塾において)】



＜第1回薩摩川内元気塾＞
テーマ：楽しい走り方のコツ



＜第2回薩摩川内元気塾＞
テーマ：正しい投げ方

(児童の感想)

- 正しい走り方・投げ方が分かると記録がとてよくなった。もっと練習して上手になりたい。
- トレーニングの仕方や準備運動の仕方がとても分かりやすかった。
- 講師の先生方と楽しく学習ができて、運動することが好きになった。